

デジタル田園都市国家構想交付金関係活用事業 令和4(2022)年度の進捗状況

(1) デジタル田園都市国家構想交付金活用事業の進捗状況について

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用している事業（飯山グッドビジネスによるしごと・ひと創出事業、信越自然郷における自転車活用推進事業）の最終年度（令和4(2022)年度）に掲げた目標値を達成させるために、各年度の目標に対して、実績値により進捗状況を把握する。

また、デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）を活用している事業（道の駅を核としたアウトドアアクティビティ拠点施設整備事業）の最終年度（令和8(2026)年度）（※事業完了は令和5(2023)年度）の目標値を達成させるために、実績値により進捗状況を把握する。

(2) 目標値に対する判定の基準について

資料3の第2期飯山市総合戦略の『目標値に対する判定の基準』と同様の判定基準で行う。

(3) 事業の進捗状況について

① デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）

事業名	指 標	R4 年度 目標値	R3 年度 目標値	R3 年度 実績値	評 価	R4 年度 目標値	R4 年度 実績値	評 価
飯山グッド ビジネスに よるしごと・ひと創 出事業	グッドビジ ネス事業 (者)数	15 者	10 者	10 者	◎ (100%)	15 者	15 者	◎ (100%)
	グッドビジ ネス事業者 による事業 連携数	4 者	2 者	2 者	◎ (100%)	4 者	4 者	◎ (100%)
	ビジネス事 業者による 新規流入事 業(者)数	2 者	1 者	1 者	◎ (100%)	2 者	1 者	△ (50.0%)
信越自然郷 における自 転車活用推 進事業	広域旅行企 画商品延宿 泊数	4,145 人	3,545 人	156 人	× (4.4%)	4,145 人	798 人	× (19.3%)
	観光消費額	462 億円	449 億円	248 億円	△ (55.2%)	462 億円	331 億円	○ (71.6%)
	新幹線飯山 駅乗客数	637 人	619 人	361 人	△ (58.3%)	637 人	529 人	○ (83.0%)

グッドビジネスの事業は、順調に目標を達成することができた指標もあったが新型コロナウイルスの影響を受けて1つの指標は達成することはできなかったが事業を推進することができた。自転車活用推進事業については、新型コロナウイルスの影響もあったが、70%程度の達成割合となった。また、令和3年と令和4年の比較をした場合、全ての達成状況が改善されている。デジタル田園国家構想交付金（地方創生推進タイプ）を活用して、交流人口や関係人口の創出につなげることが出来た。

② デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）

事業名	指 標	R8 年度 目標値	R3 年度 基準値	R4 年度 目標値	R4 年度 実績値	評 価
道の駅を核としたアウトドアアクティビティ拠点施設整備事業	飯山市年間観光地利用客数	5,532 百人	5,132 百人	5,132 百人	6,547 百人	◎ (127.6%)
	本事業で整備したアクティビティ拠点の年間来場者数	21,200 人	0 人	0 人	0 人	-
	本事業で整備したアクティビティ拠点を起終点又は中継点とする体験メニューの造成数	20 件	0 件	0 件	0 件	-

アクティビティ拠点施設整備事業は、令和4年度～令和5年度の2か年で事業を実施しています。アクティビティ拠点が令和5年11月1日にオープンをしたことから、今後、年間来場者数や体験メニューの造成数の目標値を達成することができるように事業を推進していきたい。なお、年間観光地利用者数は、新型コロナウイルスの影響を受けたが令和3年度と比較すると伸びた結果となった。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業（R2～R4）

総合戦略の推進に資する事業を対象とし、事業費の1/2が交付金として交付される事業

【活用事業】

ハード/ ソフト	事業名	実施年度	交付対象事業費 (千円)	交付申請額 (千円)
	飯山グッドビジネスによるしごと・ひと創出事業（4頁） (事業概要) 地域の課題解決や自分のやりたいこと、生き方を実現するために“グッドビジネス”に取組む方の発掘、支援、育成を行うため、包括連携協定を提携している長野県立大学と連携し、研修会や事業構想、事業計画作成などを支援する個別相談を実施する。 ※グッドビジネスとは、①時代の変化に対応できる自己変革能力・行動力があること、②顧客だけでなく、関係者すべてを魅了していること、③ひとを活かす経営、自主性と起業精神にあること、④持続可能性を実現する取組がなされていること	R2～R4	14,679	7,340
	信越自然郷における自転車活用推進事業（7頁） (事業概要) 信越自然郷エリアの点在する観光資源の連携を図り、この圏域の魅力の向上とともに、ここに暮らす人と来訪者との交流による関係人口の創出及び新たなイノベーションの創出を生み出すため、豊かな自然環境を舞台とした自転車を活用した世界水準の長期滞在型観光を目指して「信越9市町村広域観光連携会議」と地域連携DMO「(一社) 信州いいやま観光局」が連携をして、アクティビティ拠点運営体制の強化、サイクルツアーサポート車両の配備、サイクル環境の整備等の事業を実施する。	R2～R4	58,234	29,117
ソフト・ ハード			72,913	36,457
	合計			

(事業費及びKPI等は令和5年3月31日現在)

デジタル田园都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業（R2～R4）【KPI】

飯山グッドビジネスによるしごと・ひと創出事業

No	KPI設定値	単位	(基準)	R2	R3	R4	R4 達成率 (%)	R4 評価	総括
	交付対象事業費	千円		4,999	4,840	4,840			
	交付申請額	千円		2,500	2,420	2,420			
①	グッドビジネス 事業（者）数	者	増加分	0	5	5	100.0	◎	グッドビジネス事業者 数、グッドビジネス事 業者による事業連携に ついては、目標を達成 できた。 なお、新規流入者数に ついては、コロナ禍と うこともあり1事業者 の流入にとどまった。
			目標値						
			実績値						
			累計	0	5	10			
②	グッドビジネス 事業者による事 業連携数	者	増加分	0	0	0	100.0	◎	グッドビジネス事業者 数、グッドビジネス事 業者による事業連携に ついては、目標を達成 できた。 なお、新規流入者数に ついては、コロナ禍と うこともあり1事業者 の流入にとどまった。
			目標値						
			実績値						
			累計	0	0	0			
③	グッドビジネス 事業者による新 規流入事業 （者）数	者	増加分	0	0	0	50.0	△	グッドビジネス事業者 数、グッドビジネス事 業者による事業連携に ついては、目標を達成 できた。 なお、新規流入者数に ついては、コロナ禍と うこともあり1事業者 の流入にとどまった。
			目標値						
			実績値						
			累計	0	0	0			

デジタル田園都市国家構想交付金（グッドビジネスによるしごと・ひと創出事業）

飯山市グッドビジネス事業について

1. 事業の背景・趣旨

「飯山グッドビジネス事業（以下、本事業）」は、社会性があり、環境に配慮した、次世代や未来にも良いビジネス（＝グッドビジネス）を体現しようとする事業者を応援するため実施した事業である。市は、公立大学法人長野県立大学との包括連携協定に基づき、県立大学と協力し市の地域課題をビジネス手法で解決することで、新しい未来を切り拓くことを目指した事業である。

飯山市の近年のまちづくりは、北陸新幹線の整備（平成27年開業）と一体となって推進してきたが、県内で最も人口の少ない市として、現在まで人口減少が続いており、移住・定住の促進等により急速な人口減少のスピードを食い止めることが課題となっている。

また、これまで都市施設の整備を積極的に進めてきたことで都市の基盤となる公共施設やインフラについては、一定程度充実していることから、将来的には地域の特性や住民意向を活かした「地域主体のまちづくり」を進めていく必要性が高まっていた。

現状として“働く”と“生きる”を分けて考える時代ではなくなってきた中で「自分らしい生き方が実現できること」をビジョンとし、飯山の自然という資源を生かしながら人生の質を高めること、飯山の背景や文脈を住民それぞれが解釈し、各自の事業、仕事、生業を通して「生きる、を選べる地域」になっていくこと、という今後の方向性が語られたように、地域住民や事業者の暮らしや生き方に焦点を当てた事業支援が軸として定まった。このような経緯を受けて、豊かな自然環境の中で理想の暮らしと希望するビジネスの両方が手に入る飯山市を実現するため、本事業では、地域の課題解決や自分のやりたいこと、望む生き方を実現するためにグッドビジネスに取り組む事業者への支援、育成を行い、エコシステム（事業者間の連携、協働等）の構築を目的とする事業として実施した。

2. 飯山グッドビジネス事業の全体設計と流れ

上記のような背景・趣旨のもと、本事業では、長野県立大学CSIセンターによる助言やコーディネーターとの連携をもとに、令和2年から令和4年度までの3年間で「飯山グッドビジネスラボ（以下、GBL）」並びに「グッドビジネスミステイニング（以下、GBM）」を実施してきた。

（1）令和2年～4年度 グッドビジネスラボ（GBL）の概要

市内事業者を対象に自身が望むビジネスアイデアや事業構想づくりに対して、個別相談（メンタリング）を行い、自社の強みや特徴をリフレーミングするなど専門的な助言及びコンサルテーションを行う“ラボ”として実施された。令和2年～令和4年度にかけては、GBL1期生から3期生が参加した。各回のGBLの中で前年度のGBL参加事業者に対する事業計画実施段階での課題整理とその解決を支援する個別相談（フォローアップ）も同時に行われ、年度を重ねるごとにGBL参加事業者のコミュニティ形成も図られた。

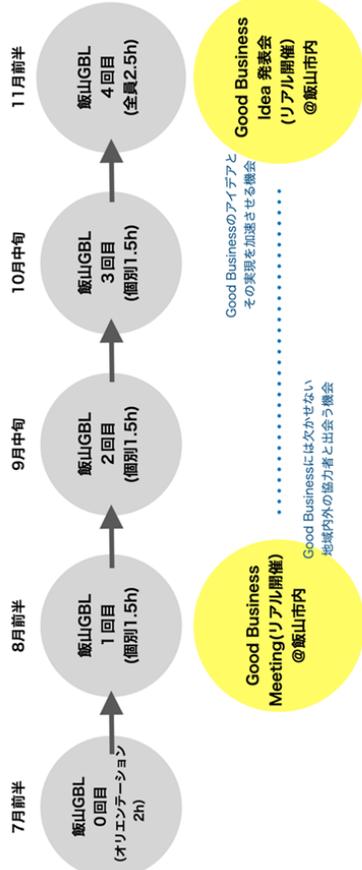
（2）令和2年～4年度 グッドビジネスミステイニング（GBM）の概要

市内事業者のみならず、グッドビジネスな経済圏を共創しようとする市外事業者も対象として、グッドビジネスの理解を深め、グッドビジネスに取り組む人材の発掘や取り組みの普及を目的に国内外の事例について学びが講演会と研修を企画・実施した。それはグッドビジネスのエコシステム構築のためでもあり、地域内外から事業者同士が学び、共感を重ねられるGBL協力者と出会う機会にもなっていた。

（3）令和2年～4年度 グッドビジネスアイデア（GBI）発表会の概要

本事業プログラムとしては、毎年オリエンテーションを含む4回のGBLと、期間中に開催される1回のGBM、また2年目以降はGBL最終回到「飯山 Good Business Idea発表会（以下、GBI発表会）」が開催されるサイクルで概ね運営されてきた。

1期生～3期生までGood Business Idea発表会を最終回に実施！



3. 本事業の成果

1) 事業者がまちづくりのプレイヤーへ本事業に参加した事業者は、もともと飯山市を元気にしたい、活気づけたいと考える強いパブリックマインドをもっていたところ、GBL /GBMIに参加する中で自社の事業と地域活性・まちづくりの紐付け(リフレミミング)による意味付け)ができるようになったことで、(農家ではなく“コミュニティビルダー”と捉えるようになった事例にも表れているように)民間主体の「まちづくりのプレイヤー」になったと言える。
 もともとまちづくりは、行政や市民団体が主体になることが多かったところ、主体的に動く民間企業が事業展開していくことで、飯山市にとって地域の発展になっていくことは多層的な地域活性化につながった。

2) 内側からの魅力発信

次項2の社会的意義でも述べるように、本事業では、まず参加事業者自身の事業を捉え直す中で「自分ごと」と「地域ごと」の重なりを発見し、飯山で生きる自分たちが生き生きと暮らすあり方を魅力として発信し始めている。地域の独自性やカラーを活かしながら関係人口を増やした好事例を取材し続けてきた雑誌や書籍においても、「自分たちが楽しいと思ったことから小さく始める“内向きの思考”」こそが持続的なコミュニティのポイントであることが指摘されているように、その地域ならではのユニークさを再定義する上でも、外と比べる発想ではなく、まず内側から自分たちの魅力を再認識し発信することが、“結果として”外の人も惹きつけることにつながる。

3) エリアマネジメント/エリアリノベーションによる地域活性化

近年まちづくりにおいては、特定のエリアを単位に、民間が主体となつて、まちづくりや地域経営(マネジメント)を積極的に行う「エリアマネジメント」の考え方や特定のエリアで同時多発的に起こる広義のリノベーション(場所に新しい意味を付与する活動)が、地域全体の価値を引き上げていく「エリアリノベーション」の概念が注目されるようになってきている。

本事業では、最初からそれらの考え方に基づいていたわけではないものの、複数の事業者(まちづくりプレイヤー)がそれぞれの資源(農作物・観光資源・体験価値)を活用した事業づくりをパラレルに進め、先述した共通コンセプトのもと地域全体の取り組みとして発信できるようになっており、エリアマネジメント/リノベーションに基づく地域活性化の事例に
 なりつつあると言える。

令和3、4年度の発表会の内容は 特設ウェブサイトに掲載

(<https://iyamagoodbusiness.net/category/idea/>)

デジタル田园都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）活用事業（R2～R4）【KPI】

信越自然郷における自転車活用推進事業

No	KPI設定値	単位	(基準)	R2	R3	R4	R4達成率(%)	R4評価	総括
	交付対象事業費	千円		29,526	14,532	14,176			
	交付申請額	千円		14,763	7,266	7,088			
①	広域旅行企画商品延宿泊数	人泊／年	目標値	2,045	500	600	19.3	×	コロナ禍により、2020年に実施を予定していた「欧米豪サイクルツアー企画有識者のエリア調査」等の事業を2022年に実施するなど当初計画の変更を行い、KPIの数値においても目標値を下回る結果となったが、受入環境の整備等積極的に行い、2023年には海外からの長期サイクルツアーや、JR飯山線と連携したサイクルトレイルの試行運用も実施予定となるなど、交流人口増加に向けた今後につながる取り組みとなった。
			実績値	3,045	3,545	4,145			
			増加分	-1,430	-459	642			
			累計	615	156	798			
②	観光消費額	億円／年	目標値	423	13	13	71.6	○	
			実績値	436	449	462			
			増加分	-123	-52	83			
			累計	300	248	331			
③	新幹線飯山駅乗車数	人／日	目標値	567	18	18	83.0	○	
			実績値	601	619	637			
			増加分	-286	80	168			
			累計	281	361	529			

「信越自然郷における自転車活用推進事業」 概要

総事業費 68,800 千円 《R2:31,400 R3:20,200 R4:17,200》

計画区域

信越9市町村（飯山市 中野市 妙高市 山ノ内町 信濃町 飯綱町 木島平村 野沢温泉村 栄村）

計画概要

信越自然郷エリアにおける世界水準の滞在型観光地化を目指し、自転車を活用した観光地域づくりのための「信越9市町村広域観光連携会議」と「地域連携DMO（一社）信州いいやま観光局」が一体となった推進体制の強化、保養・獲得型旅行商品の企画・成とプロモーション、及び、団体・個人・年齢・性別・国籍・身体等に違いを設けない広義のユニバーサルツーリズムに対応した環境整備を実施する。

事業概要

- ① アクティビティ拠点運営体制強化
 - DMO運営「信越自然郷アクティビティセンター」体制強化
- ② サイクルサポート車両配備
 - ツアー専用ユニバーサルシンボルバス購入
- ③ 保養獲得型旅行商品企画造成
 - 自転車活用を中心とした旅行プログラムの企画造成
- ④ サイクルツアー有識者招聘とブランド力向上
 - 自転車環境構築調査
 - 「信越自然郷」世界発信に向けた講演会
- ⑤ PRツール制作負担金
- ⑥ E-BIKE 購入、サイクルステーション設置負担金



SHINETSU-SHIZENKYO ACTIVITY CENTER



地方創生関係交付金活用事業※デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）活用事業（R4～R8）【KPI】

◎総合戦略の推進に資する事業を対象とし、事業費の1/2が交付金として交付される事業

【活用事業】

道の駅を核としたアウトドアアクティビティ拠点施設整備事業

【事業概要】

千曲川沿いにある立地を活かすため、道の駅にアクティビティ拠点施設を整備し、関係人口及び定住人口を増加させると共に、集客力の向上を図ることで次世代につながる地域づくりを目指す。また、アクティビティ拠点施設内に、ビクターセンター及びアウトドアの関連店舗を整備することで、広域観光を契機とした持続可能な地域づくりを実施する。

No	KPI設定値	単位	(基準)	R4	R5	R6	R7	R8	R4 達成率 (%)	R4 評価
	事業費	千円		257,857	406,100					
	交付金	千円		126,428	203,050					
①	飯山市年間観光地利用者数	百人	増加分	0	100	100	100	100		
			年度計	5,132	5,232	5,332	5,432	5,532	127.6%	◎
	実績値		1,415							
	実績値		5,132							
②	本事業で整備したアクティビティ拠点の年間来場者数	人	増加分	0	20,300	300	300	300		
			年度計	0	20,300	20,600	20,900	21,200		
	実績値		0							
	実績値		0							
③	本事業で整備したアクティビティ拠点を起終点又は中継点とする体験メニューの造成数	件	増加分	0	5	5	5	5		
			年度計	0	5	10	15	20		
	実績値		0							
	実績値		0							

(事業費及びKPI等は令和5年3月31日現在)